

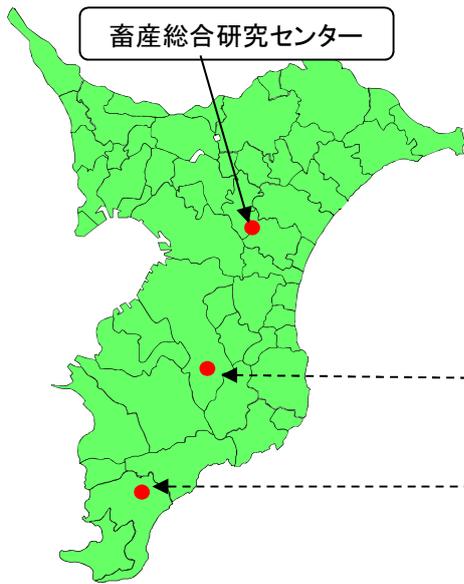
千葉県畜産総合研究センター

当センターでは、先端技術を活用して良質で安全な畜産物を効率的に生産するため、畜産農家が求める生産性の高い革新的な技術を開発するとともに、地域資源の循環利用を中心とした環境に調和した畜産技術の研究開発を行っています。



組織機構

センター長 — 次長 (2名)



総務課
(事 5名)

企画環境研究室
(研 8名、技 3名)

乳牛肉牛研究室
(研 7名、技 9名)

養豚養鶏研究室
(研 8名、技 16名)

市原乳牛研究所
(事 1名、研 7名、技 5名)

嶺岡乳牛研究所
(事 1名、研 6名、技 11名)

企画環境研究室

【企画】

試験研究基本方針の策定や研究課題評価システムの運営の他、当センター内外にまたがる業務運営を企画、調整するとともに、普及組織等と連携して、研究成果の普及や研修会による人材育成に取り組んでいます。

【経営】

県内畜産経営の実態把握や開発された技術の定着条件の解明及び経済的評価を行い、経営指導や経営モデルの策定を行うほか、畜産農家の経営改善に向けた指導も行っています。

【環境】

環境との調和を図り、環境に負荷をかけない畜産業の発展のために、畜舎排水の浄化処理、畜産臭気の低減、堆肥化技術など家畜排せつ物の処理・利用に関する研究を行っています。

【飼料】

自給飼料の増産に向けて、飼料作物の品種比較試験や栽培から収穫・調製技術に関する試験研究を行っています。また農家で生産された自給飼料の分析と飼料給与等の指導を行う、自給飼料分析指導センターを運営しています。



試験研究と普及の連携会議



現地での経営指導や経営調査



BOD バイオセンサーの開発

乳牛肉牛研究室

乳牛では、ICTを活用した分娩管理の改善や健全性を向上させる飼養管理技術の開発等の研究を行っています。

肉牛肥育では、脂肪交雑等の改善が期待されるビオチン（ビタミンB群）給与や肥育牛の早期出荷に向けた飼養管理技術の開発等の研究を行っています。



分娩監視装置を用いた試験



哺乳和子牛を用いた試験

養豚養鶏研究室

養豚では、日本型豚舎洗浄ロボットやICTを活用した豚体重測定の実証試験、さらに夏季における繁殖母豚の生産性向上について試験研究を行っています。

養鶏では、産卵後期の生産性向上技術の開発、アニマルウェルフェア対応ケージシステムの検証、青玉卵産出鶏の新系統の作出、さらに採卵鶏主要銘柄の長期飼育比較調査等を行っています。



系統豚ボウソウル4



青玉卵産出鶏

市原乳牛研究所

県内酪農家の後継牛を年3回、各期82頭受託し、15か月間の放牧育成と繁殖管理を行っています。

また、集団育成牛群の繁殖技術や管理技術の改善、草地の省力的な周年安定生産体系の確立に向けての試験研究を行っています。

さらに食と農の教育の充実を図るため、児童生徒の体験学習の場として社会科見学を受け入れています。



受託牛の放牧風景



小学生の社会科見学

嶺岡乳牛研究所

県南部の嶺岡山系に位置し、享保年間に徳川幕府が輸入した白牛が放牧されたことから「日本酪農発祥之地」として千葉県史跡に指定されています。

現在では乳牛の能力検定の効果的な利用技術、受精卵の効率的利用技術等に関する研究のほか、乳用牛の受精卵の供給や牛群検定情報分析センターの運営を実施するとともに、県南部における飼料増産技術や中山間地での放牧技術に関する研究を行っています。



酪農発祥の地記念碑



受精卵を供給する優良牛群

主な研究成果

- 乳用牛、肥育牛、肥育豚、採卵鶏、ブロイラーにおける飼料用米の給与技術
- 早期収穫したイネWC Sの泌乳牛への給与効果
- 肉用牛肥育、養豚、養鶏における未利用資源利用技術
- 畜産排水の低コスト脱色技術と硫黄脱窒システムの開発
- 飼料イネ専用品種の収穫時期別収量性と消化性の解明
- 家畜の胚移植等利用効率向上のための技術
- ランドレース種系統豚ボウソウル4
- 酵素剤による採卵鶏の飼料利用効率化技術
- 未利用資源による簡易脱臭法
- 飼料用トウモロコシの二期作栽培技術
- 転換畑における粗飼料の安定生産利用技術

畜産総合研究センター：〒289-1113 八街市八街へ 16-1
市原乳牛研究所：〒290-0531 市原市国本 602
嶺岡乳牛研究所：〒299-2507 南房総市大井 686

☎043-445-4511

FAX：043-445-5447

☎0436-96-1231

FAX：0436-96-0956

☎0470-46-3011

FAX：0470-46-3012